JR四国労組新聞
JRSU
2016年
7月15日
No.1（445）

四国旅客鉄道労働組合
〒760-0021 高松市西の丸町11-9
TEL（NTT）087-851-1378
（JR）086-2597~2598
http://jrsu.jrsis.com/
発行責任者／中濱　斉
編集責任者／幸　大

JR連合第25回定期大会開催

JRの代表産別として新年度の方針を満場一致で決定！

メインスローガン

働く者の立場で政策制度、組織課題の前進を図り、将来に亘り安全で社会に信頼されるＪＲを築こう！

サブスローガン

1．改訂版「安全指針」にもとづき、より安全性の向上を図り、「すべてのＪＲ関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を達成しよう！

2．「あるべき労働組合像・労使関係像」の実現をめざし、組織の強化・拡大に全力を傾注しよう！

3．将来に亘り持続可能で社会に信頼されるＪＲ産業をめざし、さまざまな政策課題解決に全力で取り組もう！

4．「中期労働政策ビジョン（2014~2018）」の到達目標達成をめざし、ＪＲグループに働く全ての者の労働条件を向上させよう！

5．ワーク・ライフ・バランスの実現にむけて、「男女平等参画推進計画」を着実に実践しよう！

6．第２４回参議院議員選挙の勝利を果たし、子育てや働くことを尊重する社会を取り戻そう！

ＪＲ連合は、６月14日・15日に「東武ホテルレバント東京」において、第25回定期大会を開催し、「働く者の立場で政策制度、組織課題の前進を図り、将来に亘り安全で社会に信頼されるＪＲを築こう！」をメインスローガンに掲げ、代議員、来賓、傍聴者合わせ、約２５０名が参集し、建設的かつ熱心な討議を通じ、安全確立、民主化闘争完遂、政策実現、労働条件の向上を中心とする新年度の運動方針を満場一致で決定した。

ＪＲ連合　松岡会長

ＪＲ連合を代表し松岡会長は挨拶で「ＪＲ各単組とグループ92単組が政策制度・組織課題を解決し、安全で社会に貢献するＪＲを築くため、さらなる飛躍を目指そう」と訴え、運動方針の各重要課題について、所信を述べ提起した。

その後、来賓の連合、交運労協、民進党、社民党の代表者、ＪＲ連合国会議員懇談会議員等に順次連帯と激励の挨拶を受けた。

議事に入り、執行部より一般経過報告・決算報告が行われた後に、新たにＪＲ連合への加盟が承認された、「四万十の宿労働組合」が紹介され、松岡会長より加盟証書が贈呈された。

左から、ＪＲ連合松岡会長、四万十の宿労働組合高岡執行委員長・山下書記長、ＪＲ四国労組中濱執行委員長

続いて、２０１６年度運動方針案及び予算案が提起され、代議員・特別代議員・女性特別代議員の計11名から、運動方針をさらに補強する立場で発言があった。

ＪＲ四国労組からも代議員、特別代議員、傍聴者など11名が出席する中、浦川代議員が代表し、①安全の確立について②春闘について③政策課題解決について④政治について発言し、討論に参加した。

その後、執行部答弁、河村事務局長の総括答弁の後、全議案が満場一致で可決された。

浦川代議員発言要旨

安全の確立について

昨年末からＪＲ四国において脱線事故や特急列車が分離状態となる事故が発生しています。いずれの事象も、一歩間違えれば重大事故につながる恐れがあることから、これらの事故に関して、これまでの対策で十分だったのか、今後の再発防止について会社に申し入れました。ＪＲ四国労組としても安全の確立は我々輸送業に働く者にとって、最重要課題と位置づけ、あらゆる場面で会社と議論を深めており、今後も安全最優先の職場風土、企業風土を構築し、安全の確保に妥協することなく、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

春闘について

２０１６春闘においては、連合・ＪＲ連合が提唱する「月例賃金の引き上げを目指し、併せて賃金要求項目の集中化を図るという観点から、夏季手当を同時要求しました。15年連続ベアゼロという極めて残念な妥結となりましたが、定期昇給の確保と併せて基準内賃金である「３人目以降の子の扶養手当増額」「ＳＡＳの治療等に関する取り扱い」など5項目について制度改善を図ることができました。今後も厳しい状況ではありますが、組合員の負託に添えるべくしっかり取り組んでいきたいと思っています。

発言する浦川代議員

政策課題解決について

まず、税制特例についてですが、四国は三島特例・承継特例という支援を受け、何とか地域の鉄道を守っています。支援なしでは経営自体が成り立たない極めて経営基盤の脆弱な会社です。今申し上げた税制特例が来年には期限切れとなります。今、ＪＲ連合の政策委員会を中心に税制特例について議論し数年前から恒久化を求めて延長をお願いしています。具体的な取り組みとして、地方議会における意見書採択や全組合員での署名活動、国会議員・国土交通省等への要請行動など、出来る全てに取り組みたいと考えます。我々は当該単組として組織を挙げて税制支援措置の延長・恒久化に取り組んでいきますので、今後ご支援ご協力をお願いします。

次に鉄道の抜本的高速化についてです。ＪＲ四国は他の会社のような高速鉄道による収益の柱がありません。四国の鉄道を維持するためには、高速化による鉄道需要の増加や高速化路線での収益で四国の鉄道ネットワークを維持することです。四国における鉄道高速化の実現には、引き続き地元における機運の醸成及び国への働きかけ等が重要となります。昨日、松岡会長から四国新幹線に対しエールを頂きました。夢も１００回言えば現実となると思いますので、継続してしっかり訴えていきたいと思います。ＪＲ四国労組としても、鉄道の抜本的高速化の必要性を各種集会等で訴えていきますので、今後とも四国への高速鉄道導入に向けた取り組みに支援をお願いしたいと思います。

それから、第12回政策シンポジウムを四国の地で開催していただくことに感謝を申し上げます。

政治について

第24回参議院選挙において、推薦する候補者の当選に向け、四国の地からもしっかり取り組むことを約束したいと思います。

最後に、今後とも引き続きＪＲ連合のご指導ご奮闘を要請し、四国を代表しての発言とさせていただきます。

第9回支部対抗軟式野球大会開催！

高知支部チームが2連覇!!

5月13日（金）香川県丸亀市「四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀」において、「第9回支部対抗軟式野球大会」が開催されました。

昨年は、雨天のため中止となりましたが、今年は初夏を思わせるような晴天の下、香川・愛媛・徳島・高知支部の4チームの選手、スタッフとして本部青女役員、また審判団には、我々の仲間の公式審判員3名に参加いただき、大会は大いに盛り上がりました。

試合は、4チームによるトーナメント方式で行われ、青年女性組合員によるはつらつとした真剣勝負が行われました。

決勝戦は、初優勝を目指す徳島支部チームと前回覇者の高知支部チームの対戦となり、熱戦の末、高知支部チームが見事連覇を達成しました。

《試合結果》
【1回戦】
香川0―1高知
愛媛0―8徳島
【3位決定戦】
愛媛1―8香川
【決勝戦】
高知6―4徳島

ユニオンスクール開催！

6月4日（土）香川県宇多津町「ホテルサンルート瀬戸大橋」において、管理者組合員（現場長・助役・非現業部門の主席クラス）を対象としたユニオンスクール「特設コース」（管理者セミナー）を15名参加のもと開催した。

始めに、中濱委員長から「管理者組合員に期待すること」と題し、JR四国労組を取り巻く情勢や四国の鉄道の抜本的高速化、組織の現状について問題提起するとともに、分会をはじめとする組織における管理者組合員の重要性などについて講演があった。

その後、富士社会教育センター武田講師から「管理者組合員に求められるもの」と題した特別講演では、変化し続ける社会において発生している労務問題などの事例が報告され、民主的労働運動の重要性や、コミュニケーション能力の向上など、職場における管理者組合員の重要性等について講演を受けた。

子供達が犠牲になる事故の撲滅願い

青年女性会議「鉄道版交通安全教室」を開催

本部青年女性会議ボランティア実行委員会メンバーは5月24日（火）、徳島県徳島市の「渭東保育所」において、今回で17回目となる「鉄道版交通安全教室」を開催した。

このボランティア活動は、青女組合員が業務中に遭遇した、子供が線路内に立ち入ったことによる痛ましい事故やヒヤリとした経験を教訓に「子供が列車に跳ねられた事故」ではなく「自分達の仲間が子供を跳ねた事故」として捉え、こういった事故を一件でも減らそうということから、平成15年から継続して企画・開催し、徳島県では3回目の開催となった。

今回の「鉄道版交通安全教室」においても、徳島支部青年女性会議組合員が中心となり「しげちゃん」「アンパンマン列車」が登場する劇「線路には近寄らない」と「列車は急に止まらない」の2本を上演するとともに、「踏切の渡り方」についての実演では、興味津々、楽しみながら正しい渡り方や線路に立ち入らないこと等を学んだ。

また、ボランティア実行委員会メンバーも、子供達とふれあう楽しい一時を過ごすことができ、鉄道の使命である安全第一、職責の重要性を改めて認識した有意義なボランティア活動となった。

なお、今回のボランティア活動においても、複数の新聞社からの取材があり、青年女性会議の活動を幅広く紹介する機会となった。

安全推進委員会を開催！

6月10日（金）16時30分から本部1階会議室で安全推進委員会が開催された。

冒頭、浦川安全推進委員長から「安全の確保は全てに優先する最重要課題であり、労働組合としてチェック機能を発揮し、安全最優先の職場風土づくりに取り組んでいかなければならない」と挨拶があり、その後、議事に入った。

議事では事務局から、①平成27年度安全・事故防止に関する経営協議会について②職場環境改善の取り組みについて③JR連合の安全に向けた取り組みについて④平成28年度の安全・安定輸送に向けた取り組みについての報告と説明があり、各委員からは、安全に関する意見や質問等、活発な議論が展開された。

JR四国労組は、今後も「安全最優先の職場風土構築」に向けて取り組みの強化を図っていくことを確認した。

九州大地震 被災地の復興に向け 連合「救援ボランティア」に参加

連合本部は4月14、16日に発生した「熊本大地震」により甚大な被害が発生した事を受け「対策救援本部」を設置し被災地の復興に向け「連合救援ボランティア」を送り出した。

JR連合は、地震発生以降、緊急の持ち回り執行委員会を開催し、4月19日に「熊本地震救援対策本部」を設置した。また、同20日に開催した第11回執行委員会において、被災された組合員を救援すべく、全組合員を対象とした「緊急カンパ」を実施することを決定するとともに、被災地支援ボランティア活動に積極的に参加していくこととした。第6陣（JR連合としては第4陣）となる救援ボランティアに6月5日から6月11日までの間JR四国労組から2名が参加した。

連合加盟組織から構成された58名で編成された第6陣は、6月5日にJR九州労組本部で出発式を終えた後、バスでベースキャンプの熊本県山鹿市「恵の里」へ向かい、夕方には現地受け入れ式とミーティングを行い、翌日から地震で甚大な被害を受けた、益城町や熊本市東区に入り作業を開始した。

現地では4名程度で班を組み、被災者宅の片付けや瓦礫撤去、集積場での作業等を行なった。

被害の大きかった益城町では多くの家が全壊や半壊の状況となっており、ボランティアの力を借りなければ作業がなかなか進まない状況にあった。

被災者宅の片付けは地震により使えなくなった家具の搬出や高齢者宅の片付けなどを行い、また、集積場での作業は重労働ではあったが、何とか力になりたいと被災地支援のため奮闘した。被災した方から、厳しい現実やこれからの生活への不安を聞くこともでき、作業が終わると住民の方々から感謝の言葉を頂いた。

被災地では着実に復旧・復興は進んでいるが、まだまだ時間が必要なことから継続的な取り組みが重要である。

JR連合は連合の一員として、被災された組合員・家族の支援に全組合員が総力を挙げる。今後も組合員の協力を要請する。

第11回本部執行委員会開催

第11回本部執行委員会は、7月11日（月）第35回定期大会の前段の10時30分より、「JRホテルクレメント高松」の会場内で開催し、前回の執行委員会以降の経過報告等を行った。

経過報告及び議事は次のとおり。

【経過報告】
（団交）
・平成28年度夏季賞与
（ジェイアール四国バス）
（経営協議会）
・ダイヤ改正
（業務）
・安全推進委員会
（事業）
・乗務員共済運営委員会
（組織）
・出向組合員対話集会（愛媛、徳島、香川・本社、高知）
（JR連合）
・第25回定期大会
・自動車連絡会幹事会

【議事】
・平成28年度夏季賞与の妥結承認について
・予備費の支出について
・JR四国労組第35回定期大会について